

卷之三

Na. 17  
'68 9.16

教育大文學部二十一年未

第三等之意，又自名之。本館封鎖其出之處，設驗印上金字，又刻評註，

夏休みも三ヶ月、三ヶ月の夫才媛乙の教育大の  
学校君のとくに日本文部省の教科書

語焉不詳。本館封錢無期限又

ト。内に豊かな感情を抱いてゐるが、それが日本文化の何  
をもたらすか、何でこれが日本の藝術と結びつて何で世界  
をもたらすか、何でこれが日本の藝術と結びつて何で世界  
をもたらすか知らないので、我のほんとに何で  
うなればならないのか、何でこれが日本の藝術と結びつて何  
をもつて、何でこれが日本の藝術と結びつて何で世界  
をもつて、何でこれが日本の藝術と結びつて何で世界

## 大英語綴字母の表現などのビック

ヒ計工を仕しやらか�だ。だが、實行する所は利  
用し、8月千日達文部省に於し講堂に於上を御  
してこしつたのである。このことは彼等の希望する事  
が移動を全く非妥協的と推進せんとするものだだ  
らない。だが、彼等はとつての講堂は「文の斗争の  
自然崩壊」し、我々の夏休み斗争によつて見事に破  
綻したことであり、彼等の現在的な「福」は、本館  
として彼等の最も恐れこゝるの日、この本館封鎖を

久義直ヒ計上を施行した文部省川大學上月葬ア  
テツチ上へた葬式料金がヨリ少しく本館料銀  
対策本部などのぞ。

卷之三

《試験用紙、空字スートの実験ヒョウ

人試験改正、空学文トの実現ヒタク

卷之三

これが既に止まつてゐる。但し第三段を踏むために争う  
ことは、日本へしては勝利の文たることは明白である。  
そこで我々は、本線新規をなすことによつて、改めて  
東京支人だけ、曰大坂路線を極端的に擴張しつづ  
き弟を推し進めていけるのだ。この二点も、我々は新  
之平斗争の大発展にあたり、もう一度はまさにと躍  
としてあこうでおないか！

六ストライキが、理学部の由で大肆行なめている。我々は  
当面、むしストライキ実現を最大限の力をもつて成敗させ  
なければならぬ。

『今月は日もあ、引日もあ、日曜の未定時分政委  
で取引、各クラスで競り討議をまきおこし、ウ  
ニス狂歡大會を實現を』

試験阻止、各學科ト向けて、大だらに我々は、クラス  
討論をまことにし、どなたかの申かり運動の方前性を相うひ  
たし、固モトクラス間の対話也、

斗争を支えもののが、ラスであることは、勿要いうまでも  
もない。クラス同和の上に起きたなしこそ、各クラス斗争を  
慶祝（更迭、自便面見等）政務主、右圖學などでは競り競争立  
ている）を確立します。

全ての學生諸君、統我斗争の尊義を自らに聲明し、  
武裝暴動、空襲等への実現から大眾団交人と前途しめう  
てはなひが!!

(文字部自治委員會)

事務局印307  
レポート管理委員会

大塚集云  
二字集云  
2:00)  
本館之前

25 24 20  
學生大會  
爭取公理  
救援公理交一獎學金問題

錢穆點校

工池壁保撤回

卷之三

前漢書  
賈生傳

金子の邊に金子木トナ  
カウシテル

諸戰國の自學と連帶

自らを客体へと縮し以れ、理性的な対応しか  
結果ではないだろうか。改めて、おわて、来る  
の挙措に立ちのではあるが、既確たる在の争  
争の中に、慧眼こそ可い。されば、試験課上の体  
中のを主体的などと考えし、試験課上の体  
制を築き上げようではないか!!

今全学斗にまきし、医学ストを

教び文常部、争を孤立させんとした子から  
が、我々曰並、文の斗争を申べんとの全學  
化、医学科<sup>等</sup>、一矢詰め矣と云ふ大脚がアリ  
且全医学ス、で反響してしこうで石谷ひり!!

文学部、社ムは極めて良きであることをは  
つ三ヶ月と公認し、我々も、我々が試験用  
止体制ニ打突するばかりではなく、医学スト実  
現の運営を手伝つてゐるが、現段、ソラモ  
日に正取立派な医学斗争を發展するに至る